院長コラム

聖書の一節から

From the Bible

✝

I planted, Apollos watered, but God gave the growth.

1 Corinthians 3:6 (New Revised Standard Version)

わたしは植え、アポロは水を注いだ。
しかし、成長させてくださったのは神です。

コリントの信徒への手紙一 3章6節（新共同訳）

西南学院 院長
今井（いまい） 尚生（なおき）

毎年花の日（6月第2日曜日）が近づくと、早緑子供の園の子どもたちが花束とカード、そしてあらかじめ考えてきた質問を携えて院長室を訪ねてくれます。「どうして先生になったんですか」。今年はこんな質問がありました。これは教師にとってはとても大切な質問です。「先生になって一番うれしいこと、それは小さかった子どもたちが、大きく育っていく姿を見ることができることです」。

近年、教師の志望者が減少しているというニュースに触れます。働き方改革とともに、教師という仕事の大変さが意識されるようになったからかもしれません。さらにAIの急速な発達は、今後の教育の在り方にも大きな影響を与えるでしょう。しかし、社会がどのように変化しようとも、子どもの成長に関わる教育という仕事はなくならないでしょう。教育には人の成長に関わることのできる喜びと、将来に対する希望があるからです。

School Organization Chart

1万人を超える学生、生徒、児童、園児が通う西南学院。

西南学院は、保育所・幼稚園から大学・大学院までを擁する全国でも数少ない総合学園です。
保育所から大学院まで一貫した理念に基づいて、保育、教育を実施しています。 ※データは2024年7月現在

西南学院大学

学生数：約8,300人

1949年開設。人文・社会系総合大学です。開学当時からキリスト教に基づく人格教育を実践してきました。また、1971年に他大学に先駆けて国際交流制度を導入し、外国語教育をはじめとする国際教育の充実・向上を図っています。長年にわたって培われてきた伝統は、社会的に高く評価されており、同窓生たちは、九州の経済界をはじめ、教育、マスコミ、法曹、福祉など多方面で活躍しています。

西南学院中学校・高等学校

【高等学校】生徒数：約1,300人

全学年、毎日1限目から7限目まで7時間の授業が行われています（月曜のみ8時間）。多様化する大学入試にも対応できるように、習熟度や進度の違いに配慮して授業を実施しています。知識の習得はもちろん、物事の善し悪しを判断する知恵と「自分にしてほしいことを隣人に行う」という積極的な生き方を身に付け、それをいかに社会で生かしていくかを学びます。

【中学校】生徒数：約690人

一人ひとりが授かった能力や個性を最大限に伸ばすことができる教育を目指し、中高一貫教育を実施しています。6年間にわたるゆとりあるカリキュラムと恵まれた環境の中で、生徒たちが自ら考え、自発的に学ぶ姿勢を身に付けると同時に、聖書の学びやクラブ活動、国際交流、ボランティア活動等を通して、豊かな人格形成ができるように配慮した教育を実施しています。

西南学院小学校

児童数：約430人

2010年に開校した、西南学院の中で最も新しい学校です。心身ともに成長著しい小学校の課程において、キリスト教の精神に基づいた教育理念のもとに「隣人愛を育む」「知恵を育む」ことを目標として、平和な未来を創る子どもたちの育成に努めています。環境に配慮して設計された校舎内は最新の教育機器を備えており、教育の質的向上が図られています。

舞鶴幼稚園

園児数：約150人

福岡市内で最も歴史のあるキリスト教主義の幼稚園です。「心ゆたかでたくましいひかりのこ」を目指して、太陽と土と水と緑に触れながら感性豊かに育ち合う子どもたちを育成しています。一人ひとりの子どもの気持ちをくみ取ることができるよう、各クラスを複数担任で受け持っています。思いやりの心を培いながら、個性豊かに伸び伸びと生きていく力を育む保育を実践しています。

早緑子供の園（保育所）

園児数：約100人

0歳児から5歳児までの園児が長時間生活する場として、家庭的な雰囲気ときめ細かな育児を心がけています。「神様に愛され守られて成長していく一人ひとりの子どもを大切に」というキリスト教を礎とした保育理念を柱に、子どもたちが神様の深い愛に包まれている安心感を持ちながら、生きる力の基礎となる心の土台を育んでほしいと願い、保育を進めています。

Vol. 15
September 13, 2024

西南学院広報誌
赤煉瓦通信（あかれんが）
～ 一粒の麦から ～
2024年9月13日発行（年2回発行）
学校法人西南学院 総合企画部 広報・校友課
〒814-8511 福岡市早良区西新6-2-92
TEL.092-823-3248
koho@seinan-gu.ac.jp

【“一粒の麦”について】

「一粒の麦」は、イエス・キリストが言われた「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒の麦のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ」を語源としたものです。広い世界の中で、西南学院は「一粒の麦」であり、西南学院で学ぶ一人ひとりもまた「一粒の麦」と言えます。「一粒の麦」が持つ可能性を信じ、社会のために尽くしていくことこそが創立者の思いであり、今もなお大切に受け継がれています。

西南学院
https://www.seinan-gakuin.jp

西南学院大学・大学院
西南学院中学校・高等学校
西南学院小学校
舞鶴幼稚園
早緑子供の園（保育所）

西南学院広報誌

赤煉瓦通信（あかれんが） Vol. 15

September 13, 2024

～ 一粒の麦から ～

特 集

西南学院とクリエイティブ

西南学院

ラグビーで培った気概を胸に伝統文化に明かりを灯す

株式会社 門田提灯店　代表取締役
門田（かどた） 明寛（あきひろ）さん　西南学院高等学校 1980年卒業　西南学院大学 経済学部経済学科 1984年卒業

明治28年創業の老舗提灯店の4代目。手作業にこだわり、ちょうちん作りの伝統を継承。インバウンド向けに絵付け体験も実施中。

太宰府天満宮にかかる大ちょうちんや、博多祇園山笠などで使う祭りちょうちん、店舗用の看板ちょうちんなどを制作しています。ちょうちんの骨組みから文字入れまで手作業で行い、山笠前などの繁忙期には深夜まで作業することも多いです。ちょうちん作りはお客様からオーダーがあり、その要望にいかにして応えるかといった仕事ですから、私はクリエイターではなく職人ですね。職人として意識していることは、手間を惜しまないこと。最後のひと手間で仕上がりに大きな差が出ます。高校・大学では、ラグビー部に所属していました。当時、高校のラグビー部の監督だった森正和先生は真っすぐな方で、「正々堂々と戦え」とずるいプレーは一切許されませんでした。手を抜かず、根気強くボールを追い続ける。「ひと手間を惜しまない」という意識は、ここで培われたものかもしれません。森先生との出会いで人生観が変わり「悔いなく生きる」とは何かを考えるようになりました。先生やラグビー部の仲間とは今も交流が続いています。まさに一生ものの出会いです。皆さんも、西南での出会いが一生ものになるように、目の前の自分にできることや、今日の出会いを大切にしてください。

特集

西南学院とクリエイティブ

西南学院は、個性を大切に伸ばしていくことを尊重し、クリエイティブな世界に羽ばたく卒業生を多く輩出しています。

今号の特集では、創造性を生かして活躍する卒業生や在校生、大学・各学校・園・保育所の取り組みを紹介します。

自分を信じて挑戦する力、大きな夢も小さな一歩から

中学生の頃からファッションや海外に興味を持ち、コンプレックスだった高身長が生かせるショーモデルに憧れていました。大学在学中にミス・ユニバース・ジャパンの九州大会で第2位に選ばれ、卒業後はイベント制作会社に就職したものの夢を諦めきれず、26歳のときに単身渡仏。コネもつてもない状況でオーディションを受け続け、自分の魅せ方を学びました。当時、ファッション業界は多様性を重んじ、アジア人モデルを起用するブランドも増えてきた時期で、積極的に意思疎通を図り、チャンスをつかみました。前職で教わった「準備が9割」という考えにも助けられ、ついにパリ・コレクションでランウェイを歩く夢が叶い、国籍も年齢もバックグラウンドも違う人々と一つの作品に向き合い、ショーの完成に携わることができた経験は宝物です。自分を信じて挑戦を続けるパワーは西南学院大学で養いました。フィリピンのワークキャンプに参加し、広い世界を見た経験やキリスト教の教えに深く触れたこと、ゼミの田村元彦先生との出会いが今の私につながっています。学生の皆さんも目の前の学びを深め、広い世界に羽ばたいてほしいです。世界で通用する力を身に付けられる学びが、西南学院には確かにあります。

モデル
萬（よろず） 由梨佳（ゆりか）さん　西南学院大学 法学部国際関係法学科 2012年卒業

26歳で単身渡仏し、パリ・コレクションや雑誌「ELLE」、MVにも出演。ミラノやロンドンでもモデル活動を行う。

自分の長所を生かし武器をつくっていく

高校時代から絵を描くことが好きで美術大学に進み、興味のあった日本史や落語をモチーフにした作品をつくっています。漫画家の活動を続けていくために、自分の武器は何か客観的に考え、旅先で培った好奇心や観察眼などの長所を生かすことで、持ち合わせていない部分を補えるよう努力してきました。ここまでの道のりは平坦ではなく、高校時代は勉強に不真面目で先生方から叱咤も受けましたが、自分の夢については強く背中を押してくださったことを覚えています。今でも当時の激励を胸に、一瞬でも読んだ人の心に深く刺さる作品をつくるべく挑戦し続けています。自身の経験から、自分のセンサーが反応したものに対し他人より一歩でも深く踏み込もうとする姿勢があれば、社会でも力強く生きられるように感じます。自由で個性を尊重する校風の西南学院に通えて心から感謝しています。

漫画家
坂上（さかうえ） 暁仁（あきひと）さん　西南学院高等学校 2012年卒業

「死に神」が第71回ちばてつや賞一般部門で入選し、2023年出版の「神田ごくら町職人ばなし」は第28回手塚治虫文化賞新生賞受賞。

挑戦の門をたたき続け、日本一に

2025年大阪・関西万博 パナソニックグループパビリオン「ノモの国」

幼少の頃、父の仕事の関係でスウェーデンに暮らし「生活をより良くするデザイン」に関心を持ちました。大学で芸術工学を学んだ後、今の会社で家電や広告のデザイナーを経験。現在はクリエイティブディレクターとして事業開発に携わっていますが、振り返ると西南学院で過ごした6年間で触れた聖書にクリエイティブの指針になるような言葉が多く登場していたことに驚いています。私が大事にしている言葉は「門をたたきなさい。そうすれば、開かれる」です。チームで挑んだ「第14回販促会議 企画コンペティション」で日本一になったときも、常にこの言葉が胸にありました。デザインの世界は挑戦の連続です。苦しいときもありますが、諦めずに門をたたき続けることでアイデアが生まれると思うので、限界をつくらず、まだまだ挑戦を続けていきます。

クリエイティブディレクター／デザイナー
迫（さこ） 健太郎（けんたろう）さん　西南学院中学校 2006年卒業　西南学院高等学校 2009年卒業

2015年にパナソニック株式会社にデザイナーとして入社。2025年大阪・関西万博に出展するパビリオンなどの企画やデザインに携わる。

自然の中で遊んだ日々は伸びやかな創造性の芽に

両親が華道家で幼少より身近だった生け花の道に進みました。生け花には作品を空間に配置することでその場の空気を変える力があり、それこそが最大の魅力です。舞鶴幼稚園では畑で野菜を育てたり、道端のよもぎを食べたり、虫捕りをしたり、どろ団子を作ったりと、自然の中から遊びを見つけることが日常でした。その経験は、花や枝だけでなく、枯れた植物や大木の樹皮までも作品に生ける今の活動につながっているといえるかもしれません。舞鶴幼稚園の「ひかりのこ」という教育理念のもとで心豊かに育ってほしいと息子と娘も通わせ、親として改めて園の素晴らしさを実感しています。デジタル化が進み、実体験なしに情報を得られる時代ですが、自ら広い世界へ足を運び、自分の五感で本物に触れ、創造性を培ってほしいと思います。

華道家
片山（かたやま） 華（はな）さん　舞鶴幼稚園 1989年卒業

九州唯一の草月流本部講師である両親のもとに生まれ、草月流華道家として活躍。第95回草月いけばな展新人賞受賞後、華道界の後進育成に注力している。

動いて新しい体験をすると ひらめきや創造の糧に

4年前、会社員をしながら趣味で描いていたイラストをSNSに投稿しはじめました。それから徐々にイラストの仕事や展示の依頼を頂けるようになり、2023年からイラストレーターとして独立し、活動しています。私が大切にしていることは、実行力です。大学時代、授業を通じて多様な価値観や文化に興味を持ち、東南アジアへ1カ月間バックパッカーの旅に出ました。道中でさまざまな国籍・文化を持つ人たちの価値観に触れたことで、自身の視野が広がり、型にはまらず生きる姿勢や好奇心を持って何事にも挑戦する力が身に付きました。とにかく新しいコトに触れ、チャレンジすることで創造の芽を育み、自分の糧にしていってください。

イラストレーター
森永（もりなが） 早紀（さき）さん
西南学院大学
文学部外国語学科
（現：外国語学部外国語学科）
英語専攻 2016年卒業

BEAMSや靴下屋へのイラスト提供、雑誌の挿絵制作にも取り組む。西南学院大学外国語学部のホームページイラストも手掛けた。
Instagram▶@saki_morinaga

失敗しても 馬鹿にされても 打席に立ち続けること

@AHK

私がヒーローに魅せられたきっかけは、人間不信に陥っていた時期に「仮面ライダー」作品と出合ったことです。ひとり親の少年がヒーローの後ろ姿に父を感じるという内容に、境遇が重なりました。ヒーローに憧れた私は、高校進学と同時にヒーローショーのアルバイトを開始。その後、紆余曲折ありましたが、一念発起して「悪の秘密結社」を創業しました。ヒーローが一人では正義の味方になれないように、作品は一人ではつくれない。人は一人では生きていけません。クリエイターにとって大切なのは失敗しても打席に立ち続けること。そしてアイデアだけでなく学校で勉強したことも社会で役立つ立派な知識です。夢は、自分が生み出したクリエイティブを“文化”にすること。必ず実現します。

ヒーロープロデューサー／脚本家
笹井（ささい） 浩生（こうき）さん
西南学院中学校
2005年卒業

2016年に株式会社 悪の秘密結社を創業。TVシリーズ「ドゲンジャーズ」のプロデューサー・脚本を担当。

感受性をコントロールすべくスイッチをオンオフ

コントラバス奏者
原田（はらだ） 遼太郎（りょうたろう）さん
早緑子供の園（保育所）1992年卒園

12歳よりコントラバスをはじめ、東京藝術大学およびヴュルツブルク音楽大学で学び、2021年に新日本フィルハーモニー交響楽団に入団。

一人ひとりの音楽家が個性を持つオーケストラはそう簡単にまとまるものではありませんが、集団を奏者として根底から支えて一つに集約させ、お客様と一体となり舞台をつくり上げる過程は何にも勝る喜びです。幼い頃の記憶は断片的ですが、早緑子供の園の降誕劇で舞台に立った経験が今につながる第一歩だったかもしれませんね。今はプロとして良いパフォーマンスを発揮し続けるために、スイッチのオンオフを明確にしています。楽器に触れる時間は、現実を忘れて音楽に没頭し、それ以外の時間は音楽から離れ、自然・絵画・歴史・芝居・食などさまざまなものに関心を向けて、感受性のアンテナを自在にコントロールしていくことを心がけています。

在校生も創造性を磨いています！

曲に感情をのせて 自分にしか 出せない音を

バイオリニスト
西南学院中学校1年
中村（なかむら） 美晴（みはる）さん

幼稚園から続けるバイオリンで全国ジュニアクラシック音楽コンクールに出場するほか、作曲でも入賞を果たす。

幼稚園の頃にバイオリンを習いはじめ、今は毎日3時間練習をして、不定期でプロの演奏家の方に見ていただいています。楽譜の通りに正しく曲を奏でるだけでなく、曲をつくった人のことや曲の雰囲気に思いをはせて、自分なりに最も適していると思う曲想を実現する演奏を目指しています。今は授業との両立や、音に感情をのせることなど、目の前の課題に立ち向かい、時にくじけそうになるときも応援してくれる家族や友人、先生のことを思い出し、練習を続けています。西南学院小学校時代にはオーケストラと共演したり、宗教委員として皆の前でお祈りをしたり、「自分を表現する」さまざまな経験をすることで感性を磨いてきました。将来は人に元気を与えられるバイオリニストになりたいと思います。

画家／アーティスト
井上（いのうえ） 祐樹（ゆうき）さん
西南学院高等学校
1992年卒業

2002年にドイツのベルリンに移住し、ドイツを拠点に活動。福岡では、2018年・2023年に個展やアートフェアで作品を発表。
ホームページ▶https://yukiinoue.net

どんな経験も創造の糧に 満足せず、覚悟し、自分を信じて

高校時代は周囲に溶け込めず、クラスにあまり友人がいない内向的な性格でした。しかし今振り返れば、当時の孤独やいら立ちからアートや音楽に魅了され、今の自分が形成されていったのだと思います。放課後に美術部の活動で絵を描き、仲間たちと好きなロックバンドについて語り合った時間はオアシスのようでした。プロテスタント発祥の地のドイツに来るまで意識したことがなかったのですが、高校時代に聖書や讃美歌に触れた経験が、ヨーロッパ文化の根底にある価値観や風習を理解する上での礎になっていると感じます。どんな経験も決して無駄にはなりません。現状に満足せず、覚悟を決めて自分を信じることで道が開けるのではないでしょうか。

西南学院での時間が宝物 言葉で前向きさを届けたい

私が常に大切にしているのは、あらゆることに挑戦し、全てに一生懸命取り組むことです。世界15カ国を旅し、船舶1級を取得、飛び級で大学院に進学するなどの経験は、今の仕事でも役に立っています。小学校の第1期生として高校卒業まで過ごした10年間は私の宝物。人との出会いはもちろん、隣人を思いやる大切さを学び、心身ともに大きく成長できました。今も壁にぶつかった時に思い出すのはチャペルでのお話です。特に和佐野校長（当時）がおっしゃった「置かれた場所で咲きなさい」という言葉に支えられてきました。私は言葉で人の心を動かす仕事がしたくて今の職に就いたので、言葉を通して前向きさを届けられるアナウンサーを目指します。

アナウンサー
久保（くぼ） 光代（みつよ）さん
西南学院小学校 2014年卒業
西南学院中学校 2017年卒業
西南学院高等学校 2020年卒業

大学院に通いながら株式会社セント・フォースに所属。フリーアナウンサーとして「めざましテレビ」などに出演。

創造性を高める西南学院の取り組み

早緑子供の園（保育所）

お話や詩から育まれる 子どもの創造性

保育士が園児にお話や詩を朗読する時間を大切にしています。子どもたちは聴きながら頭の中に思い描いたイメージを話したり、絵や作品として表現したり、話の続きを自分で創り出したりもします。

舞鶴幼稚園

自由などろんこ遊びで 磨かれる創造性

子どもたちの創造性が育まれるものの一つにどろんこ遊びがあります。どろ団子や山を作るために、水を加えたりかき混ぜたり、試行錯誤する過程で創造性が磨かれていきます。

西南学院小学校

「西南フェスティバル」で 開花する創造力

全学年の子どもたちが、クラスごとに趣向を凝らした出し物を考えます。出し物を提供する立場と体験する立場のどちらも経験することで、両方の視点から創造する力が養われます。

西南学院中学校

自ら決めたテーマを研究する アカデミックチャレンジ

3年生は毎年夏休みにテーマを決め、12月の発表会に向けて、論文や制作物などの「修了レポート」に注力。文献などを調べたり、企業や団体を訪問したりして研究活動を進めます。

西南学院高等学校

一から企画して作り上げる 「西南祭」はアイデアの結晶

多くの来場者を迎える7月開催の「西南祭」は、クラスや有志団体ごとに企画書を提出します。生徒たちが何度も案を練り直して完成した企画は、チャレンジの集大成です。

西南学院大学

「学生創発プロジェクト」で アイデアを形にする活動を応援

毎年、学生が新たなアイデアを形にする活動を支援するプロジェクトを実施。採択された活動には資金（上限20万円）が提供され、主体的な課題解決や実行力を高める機会になっています。

西南学院History

【第9回／レンガ】

100年以上の歴史を誇る西南学院には、後世に伝えるべき歴史やストーリーがたくさんあります。このコーナーでは西南学院にまつわる歴史を紹介していきます。

西南学院とレンガを巡る100年の物語

1921年竣工の赤レンガ本館（現・大学博物館）

西南学院は、米国南部バプテスト派の宣教師チャールズ K. ドージャー（Charles Kelsey Dozier, 1879-1933、以下「ドージャー」）により、1916年に福岡市大名町（現・福岡市中央区赤坂1丁目付近）に男子中学校として創立されました。1918年の西新町（現・福岡市早良区西新）への移転後、1921年に竣工した赤レンガ本館（現・大学博物館）（写真1）は、伝道活動に従事しながら、数多くのミッション・スクールや教会の建築を手がけたことで知られるヴォーリズ（William Merrell Vories, 1880-1964）の初期における代表的建築として知られています。この建物を中心として、キャンパスには赤レンガの建物が造られていきました（写真2 3）。今回のSEINAN Historyでは学院とレンガを巡る100年の物語をひもときます。

念願だった赤レンガ本館の完成

1911年4月20日、ドージャーは米国南部バプテスト連盟外国伝道局（以下「ミッション・ボード」）宛てに男子中学校設立承認と援助を訴える嘆願書を送りました。そして1915年1月13日にミッション・ボードからの承認を受け、1916年4月に開設されることとなりました。しかし中学校を開設するには、大名町の旧福岡バプテスト神学校の跡地では広さが不十分でした。そこで学院は1917年3月に西新の海岸に大名町の校地の2倍の広さ2万㎡余りの土地を購入し、新たな発展の足掛かりを得ることとなりました。この年、学院はヴォーリズと契約を交わし、校舎の建築が始まりました。

1919年12月末、ミッション・ボードから施設建設資金の一部として5,000ドルが届くと、学院は早速、念願の本館建設に着手し、ヴォーリズに学校側の要望を入れた設計の依頼を行いました。1920年9月9日に定礎式が行われ、積み上げられた赤レンガを前に、創立者ドージャーをはじめとする教職員、生徒、そして工事に携わる大工が一堂に会して記念写真が撮影されました（写真4）。建物の工事は順調に進み、1921年3月に完成しました（写真5）。赤レンガ本館の建物は、大正期のヴォーリズによるレンガ造り建築を代表するものです。ジョージアン・スタイルに由来するアメリカの伝統的なコロニアル・スタイルを採り、大きなガラス窓を配するなど近代的改良が加えられています。

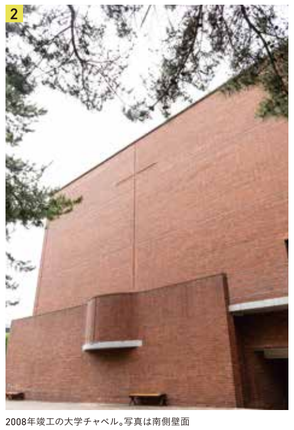
受け継がれるヴォーリズの赤レンガ

赤レンガ本館のレンガは学院の新しいチャペルにも受け継がれました。1954年に建てられた大学チャペル（ランキン・チャペル）が老朽化により建て替えられることとなり、2003年11月に大学新チャペルの建設に向けてチャペル建設委員会が発足しました。コンペ（設計競技）を勝ち抜いた一粒社ヴォーリズ建築事務所の設計案で新チャペル建設が始まった頃、チャペル建設委員会でレンガの仕様について議論が起きました。設計の過程で主に財政的な理由から、外壁について、旧本館と同じ「イギリス積み」から見せかけだけの「イギリス調積み」への仕様変更の提案がありました。つまり、あらかじめ長手方向の中央に目地を刻んだレンガを代用として使ってはどうかというものでした。経費が削減でき、工期も短縮され、強度も増すという「イギリス調積み」ではだめなのかと。そこで参照されたのが、赤レンガ本館の建築のためにヴォーリズの事務所が作成した「建築仕様書」（写真6）でした。仕様書には「煉瓦工事」という箇所があり、そこには15項目にわたりレンガ職人への指示が書かれています。

> “窓出入り口等の上には針金を引き通し垂直に水糸を垂らし…煉瓦石は形状正確な博多窯業会社製東京形機械製とし、斑点、疵、混ざり物等無きものにして、化粧積み煉瓦は一等焼き過ぎ煉瓦色の揃った物とし…煉瓦積み方はイギリス積み、目地は縦三分、横二分五厘…毎日終業の際は、筵苫（むしろとま）などを用いて煉瓦積みを被覆し、常に日光の直射を避け、凍結の際は煉瓦積みを見合せ、降雨のありそうな時は四分板などで被って養生すること。”

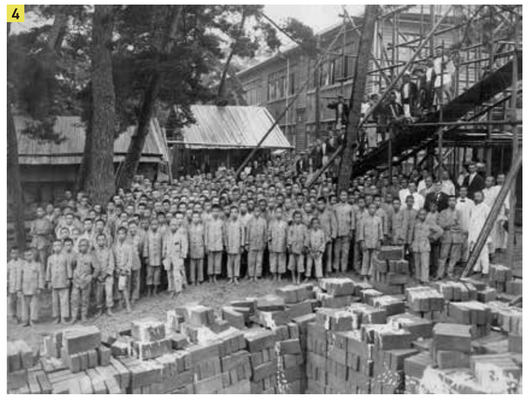
一世紀近く残るであろうチャペルに憂いを残したくない。結局、委員会は正規の「イギリス積み」を採用しました。

また、チャペル外壁のレンガの色調には赤レンガ本館のレンガの色調が踏襲されています（写真2）。しかし、当時と今とではレンガの焼成温度や使用する土、そして窯の違いにより、同じ質感と色調のレンガを作ることが不可能でした。そのため、レンガの製作過程において、窯の焼成温度を低く設定し、色調に赤みを増す工夫や、火の状態をあえて不安定にして当時の窯の状態に近づけることによって、くすぶり感や自然な色むらを出すことが試みられました。チャペル内部には愛知県瀬戸産の白い土が原料の特注レンガが積まれています（写真7）。



2008年竣工の大学チャペル。写真は南側壁面

2016年竣工の大学図書館



赤レンガ本館定礎式（1920年）

完成した赤レンガ本館（1921年）

西南学院本館・講堂のための『建築仕様書』（1920年）、西南学院史資料センター所蔵

チャペル側面、波型に積まれた白いレンガの壁

赤レンガの図書館

学院には赤レンガ本館と並んで旧制時代の面影をしのぶもう一つの赤レンガの建物がありました（写真8）。1936年の学院創立20周年記念事業として、旧制高等学部および中学部の新校舎を新築するため、日米両国において募金運動が展開されました。しかし、時局悪化に伴い米国ミッション・ボードからの寄付の見通しが立たなくなり、募金総額が当初予定の3分の1になったため、計画を大幅に縮小し、学院の付属施設として図書館閲覧室と書庫が建築されることになりました。工事は1941年9月に着工しますが、資材および労力の不足のため、完成までの工期は延長されました。そして1942年4月に総面積148.5㎡（45坪）の赤レンガ書庫が、次いで同年10月に書庫に接続した184.8㎡（56坪）の閲覧室が完成しました。赤レンガ書庫は建築当時は地上1階と半地下のみでしたが、戦後、新制大学開設と同時に蔵書が増えると2階が増築されました。1954年に大学の図書館が完成した後は高等学校の書庫、卓球部の練習場などとして使われ、1977年に老朽化のため取り壊されました。

それから約40年後、学院に再び赤レンガの図書館が完成しました。新図書館の外装にはレンガが採用され、耐震性に優れた乾式レンガ積み工法で施工されました（写真9）。図書館としての基本機能のほかに、情報交流の場として、内外からの視認性に優れ、透明感のあるレンガ透かし積みパターンが採用され、木陰で読書をするような気持ち良さが演出されています（写真10）。学院とレンガを巡る物語はこれからも続いていきます。

【参考文献】
後藤新治「ヴォーリズの赤煉瓦」西南学院月報、第679号、2008年3月。
中山献児「西南学院大学チャペル ―神の栄光のために―」西南学院史紀要、第4号、3-11頁、2009年。

1942年竣工の赤レンガ書庫

大学図書館壁面のレンガを取り付ける様子
画像提供：株式会社日本陶業

大学図書館正面

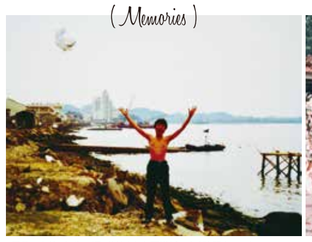
卒業生を訪ねて

西南学院で学び、さまざまな場所や分野で
個性を輝かせている卒業生の皆さんに、
今のお仕事の話や在学中の思い出を語っていただきます。

西南学院は私の原点であり、アイデンティティーの源

株式会社西日本新聞社　代表取締役社長兼グループ経営会議議長代理
田川 大介（たがわ だいすけ）さん
西南学院高等学校 1985年卒業
西南学院大学 文学部国際文化学科
（現：国際文化学部国際文化学科）1989年卒業

1965年生まれ。1989年に西日本新聞社に記者として入社し、事件・司法・政治・医療などを担当。社会部長、メディア戦略局次長、取締役編集局長などを経て、2024年6月より現職。



2回目の高校1年生の頃、荒涼とした百道浜でよく時間をつぶしていたそう。今この付近は、埋め立てられてふかトピア通りに

1989年3月、大学卒業を記念して斉藤末弘ゼミナールのゼミ旗を新調。完成して間もない2号館の前で（田川さんは前列左）

2024年6月に西日本新聞社の社長に就任し、西南学院の理事も務めていますが、実は高校1年生の時に数学の成績が振るわず、留年しました。2回目の1年生でふてくされていた折、先生に誘われて教会の礼拝に行くようになり、同年に洗礼を受けました。その後、西南学院大学の国際文化学科に入学し、近現代日本文学のゼミナールに進んで、遠藤周作の「沈黙論」をテーマに卒業論文に取り組みました。高校時代からキリスト教に触れ、大学時代にキリスト教文学を研究したことが私にとってのターニングポイントでした。毎日のようにゼミの仲間たちと共に、罪や死について取り上げた文学作品を読んでは互いの意見を交換し合ったり、「愛とは何なのか」ということについて深く掘り下げて考えたりした日々は、私の原点でありアイデンティティーの源です。本質を捉えるということはどういうことなのかと考え続けてきた日々が、社会に対してものの見方や、記者としての基本ともいえる視座を持つことにつながっています。

大学卒業後に入社した西日本新聞は、福岡・九州を見つめながら取材活動をするブロック紙です。常にその視点を忘れず、自分たちに求められ、自分たちだからこそ発信できる情報は何かということを追い続けています。私が新聞記者として長年仕事をしてきた中で大事にし、後輩たちにも伝えていることは、西南学院で学んだ聖書の言葉「私たちは、見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠に存続するからです」（コリントの信徒への手紙Ⅱ 4章18節＝聖書協会共同訳）。悲惨な事件や災害、不条理な現実に直面して立ち尽くすとき、絶望としか思えない状況においても存在する希望や光に目を凝らすこと、目の前の事象の背後にあるものに思いを至らせ、記事を執筆することを心掛けてきました。ニュースにはならないけれど人々の生活や日常を見つめていくことも大切です。人間は罪深い存在であり、弱いところもたくさん持っています。それらを批判するばかりではなく直視し、時には共感しながら思いを引き出し、伝えたいと考えてきました。

私は西南学院大学出身者として初めて西日本新聞社の社長を務めることになりました。アジアの窓口であり九州の中心である福岡を拠点に九州全域を視野に入れ、東京や海外にも取材拠点を擁する全国でもユニークな新聞社であることを、これからも大切に守っていきます。今でも毎週日曜は西南学院バプテスト教会で礼拝をささげています。パイプオルガンの澄み切った音色に導かれて讃美歌を歌い、牧師の説教を聴き、内省し、この週どう生きて働くべきなのかを黙想します。これからも一人ひとりを尊重し、人と社会に仕えることを促す、西南学院の自由な学風を胸に、地域に貢献していけるよう誠心誠意努めていくつもりです。

今回のテーマは
「ウェルビーイング」

学びの現場から

西南学院の大学・各学校・園・保育所では、
学生、生徒、児童、園児の成長のために教職員が一丸となり、
より良い教育を目指して
日々さまざまな取り組みを行っています。

教育現場でも高まる ウェルビーイングへの意識

一山崎 昨今、身体的・精神的・社会的に良好な状態にあることを意味する「ウェルビーイング」という言葉がよく聞かれるようになりました。大学では大切な考え方の一つとして学生に伝えていますが、幼児教育の現場ではいかがでしょうか。

一山本 2023年12月、こども家庭庁で「はじめの100か月の育ちビジョン」が閣議決定され「誕生前から幼児期は生涯にわたるウェルビーイングの基盤となる最も重要な時期」と定義されました。こうした考え方は以前からあり、園の理念にも通じるものでしたが、定義づけられたことで改めて現場で振り返る機会が増えました。

一山崎 先生がおっしゃる通り、新しい考えというよりは以前からあった大切な考え方が改めて言語化されたという印象ですね。今、ウェルビーイングが声高に叫ばれるようになった理由としては、人々の豊かさに対する意識や価値観の変化が挙げられます。我が国では、戦後、物質的・経済的な豊かさを追求してきましたが、物質的・経済的な豊かさを追求しても幸福になるとは限らないことが明らかとなってきました。なおOECDの学びの羅針盤2030では、個人と集団のウェルビーイングが私たちの望む未来であり、共通の目的地は社会のウェルビーイングであるとされています。

早緑子供の園（保育所）
保育士
山本 茉莉（やまもと まり）

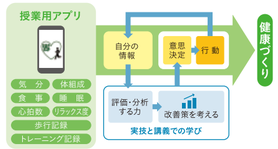
西南学院大学
人間科学部 社会福祉学科 教授
山崎 先也（やまさき さきや）

早緑子供の園では、子どもたちが安心して過ごせるように「育児担当制」を導入し、愛着やリズムを持てるように配慮

一山本 タイパやコスパなどの効率を追い求めても、やがて限界が訪れます。本当の豊かさについて考える時期が、いよいよやってきたのかもしれませんね。

主体性を持って行動することが社会全体の幸福度アップにつながる

一山崎 幸福の定義は人それぞれですが、健康は年齢・性別や時代問わず、大切な要素といえるのではないでしょうか。西南学院大学では、全学部学生の必修科目として「ヘルスリテラシー」があります。入学から4年間使えるアプリをスマホに入れ、睡眠、栄養や運動などを記録するんです。特徴的なのは、その日の気分も入力できること。データを振り返ることで、自分と向き合い、自身をうまくマネジメントするきっかけにしてもらえたらと思っています。



授業「ヘルスリテラシー」による自身の健康管理

一山本 保育所では、心身ともに健やかに過ごすための環境を与えるために「流れる日課」を導入し、全員同じ時間に同じ活動をするのではなく、食事や睡眠など一人ひとりの生活に合わせた日課を作り、リズムを整えてあげることを心がけています。

一山崎 保育所は子どもたちと過ごす時間が長い分、保育士の存在や影響力は絶大でしょうね。学生には主体性を持ってほしいので自分で考えて行動するように促していますが、乳幼児期はまだその段階ではないからこそ、先生方による環境整備は大切でしょう。

一山本 そうですね。幼児教育でも主体性は大切ですが、まずは子どもたちの基本的な生活を守るという土台作りが何よりも大切だと考えています。安心して過ごせる環境があることで、主体性が育まれ、幸福にもつながるのではないかと思います。

一山崎 主体的に働くことで自らを成長させ、より良い社会をつくる一助になる。良い社会になれば、循環して個人の幸福度も高まる。まさに主体性は、ウェルビーイングを考える上で重要なキーワードですね。我々がその基盤を築くことで子どもや学生が大きく羽ばたいてくれたら、これほどうれしいことはありません。

SEINAN GAKUIN information
～西南学院からのお知らせ～

「西南学院大学 第19回ホームカミングデー」のご案内

西南学院大学では、卒業生の皆さまをキャンパスにお迎えし、懐かしい仲間と再会し交流・親睦を深めていただくために「ホームカミングデー」を開催しております。今年度も大学祭の開催時期に合わせて、以下の日時で開催いたします。懐かしのあの場所、思い出の母校に帰ってきませんか？お誘い合わせの上、ぜひご参加お待ちしております。

日　時：2024年11月9日（土）
　　10：00～
場　所：大学チャペル

※詳細はホームページをご覧ください。

【お問い合わせ】
西南学院 総合企画部 広報・校友課
TEL：092-823-3248
E-mail：koyu@seinan-gu.ac.jp

昨年度の様子

≪西南学院史資料センター≫ 2024年度企画展「西南学院の女性宣教師たち―学院の礎を築いた女性たち」

本企画展では、西南学院を支えた女性宣教師の事績に光を当て、今日まで継承される女性宣教師たちの働きを資料とともに振り返ります。

会　場：西南学院百年館（松緑館）1F企画展示室
会　期：2024年3月1日（金）～12月20日（金）
時　間：9：00～17：00（入場は16：30まで）
休 館 日：日曜日
入 館 料：無料
主　催：学校法人西南学院

第1回 西南学院小学校同窓会を開催しました

2024年3月23日、西南学院小学校では開校15周年を迎えるにあたり、第1回同窓会をチャペルにて開催しました。約200名の卒業生や教職員が集い、懐かしい思い出話を交えながら、お互いの成長を確かめ合う温かい時間となりました。

第1回 西南学院小学校同窓会

メールマガジン「西南学院Letter」にご登録ください！

メルマガ『西南学院Letter』は、西南学院のNEWSやイベント情報などをおよそ月に2回の頻度でお届けいたします。

ぜひご登録ください

※携帯電話のメールアドレスをご登録の場合は、ドメイン名「seinan-gu.ac.jp」からのメールを受信可能な状態に設定をお願いいたします。

公式SNSをフォローして“今”を知ろう！

西南学院大学・各学校・園の公式SNSです。ぜひフォローをお願いいたします。皆さまからのいいね！をお待ちしています。

大学
Facebook　Instagram
X（旧Twitter）　YouTube

中学校・高等学校
Instagram　YouTube

小学校
Instagram

舞鶴幼稚園
Instagram

西南学院大学サポーターズ募金ご協力のお願い

2018年4月から開始した西南学院大学サポーターズ募金では、寄付者のご意向に沿った目的に使用するために使途をお選びいただけます。
皆さまのお気持ちが本学のさまざまな活動の大きな支えになりますので、ご協力をお願いいたします。 ※この寄付金については、所得税法および法人税による減免税の措置を受けることができます。

＜選べる使途の種類＞

1	2	3	4	5
大学給付奨学金	教育・研究活動支援	スポーツ・文化活動支援	グローバル人材育成支援	ボランティア活動支援

寄付者銘板のご紹介

ご寄付をいただいた個人様、団体様、法人様のご芳名を刻銘した銘板を、西南学院百年館（松緑館）の1階に設置し、末永く顕彰いたします。

銘板掲載対象
【個人】5万円以上
【団体】10万円以上
【法人】50万円以上
の寄付をいただいた方

西南学院大学サポーターズ募金に関するお問い合わせ
西南学院 総合企画部 広報・校友課
TEL：092-823-3248　FAX：092-823-3249
E-mail：koyu@seinan-gu.ac.jp
西南学院大学サポーターズ募金ホームページはこちら▶▶▶

「スポーツ・文化活動支援」へのご寄付を物品購入等に活用させていただきました。ご寄付いただきました方々に改めてお礼申し上げます。

女子ハンドボール部
西日本学生ハンドボール選手権大会（西日本インカレ）出場のための交通費として活用いたしました。

ヨット部
救助船エンジン機器の換装作業費や船のマスト購入費として活用いたしました。

準硬式野球部
清瀬杯出場のための交通費および宿泊費として活用いたしました。

ラグビー部
ウィンドブレーカーや治療機器、撮影用のビデオカメラ購入に活用いたしました。

SEINAN TOPICS
大学・各学校・園・保育所の近況

早緑子供の園（保育所）

お誕生日はクラスでお祝い その子に注目する大切な時間

園児のお誕生日には、クラスでその子を囲んでお祝いをします。お話やわらべうた遊びを楽しむほか、幼児クラス（3～5歳児）になると、お友だちから絵や折り紙など心のこもった手作りプレゼントももらいます。一人ひとりが神様や周りにいるたくさんの人に愛されていることを感じながら、成長していってほしいと思います。

3歳のお誕生日おめでとう！

舞鶴幼稚園

みんなで田植えに挑戦！ 早くみんなで食べたいね

6月26日、園の田んぼにて年長児（ひかりぐみ）が田植えに挑戦しました。泥や水の感触を楽しみながら苗を植え、9月ごろに稲刈りやもみすりなどもしていきます。その中で、お米ができるまでの過程や大変さなどを子どもたちと考えたり話したりしていく予定です。「早く稲が大きくなってみんなで食べたいね」と笑い合った楽しいひとときでした。

泥だらけになって田んぼで苗を植える園児

西南学院小学校

教会の牧師のお話と 美しい調べに耳を傾け

6月18日・19日に、福岡西部バプテスト教会の麦野達一牧師をお迎えし、礼拝が行われました。ホルンの演奏を通じて、かつて狩猟に使われ、命を奪う道具であったホルンが、今では美しい調べを奏でる楽器になっていることを教えていただきました。児童たちにとって、神様の深い愛を再認識する機会となりました。

熱心に耳を傾ける児童たち

西南学院中学校・高等学校

中学校でクラスマッチ開催！ 雨にも負けず大盛り上がり

5月31日、中学校でクラスマッチが行われました。前日から降りはじめた雨に、中学生たちも教職員も少し肩を落としていたのですが「きっと明日は晴れてくれるはず！」という願いとともに当日を迎えました。午前中はやはり雨。しかし、午後からは雨が上がり屋外競技も大盛り上がり。各クラスの声援がグラウンドに響き渡っていました。

中学1年生男子、ドッジボールの試合開始！

文化祭の弁論大会で留学生が発表 生徒たちの視野が広がるきっかけに

7月12日、文化祭初日に弁論大会を実施し、在校生から選ばれた11名が、高校1年生全員の前でさまざまな視点・感性の弁論を披露しました。中でも留学生のセリナさんは、福岡に滞在中の数々のエピソードを発表。夏にフィンランドに帰国しましたが、本校の生徒たちの海外に対する視野をより広げてくれるきっかけをくれました。

登壇し、弁論を発表するセリナさん

西南学院大学

「学生企画型キャリア支援イベント 就活EXPO」を開催

6月12日～14日の3日間「学生企画型キャリア支援イベント就活EXPO」を開催。今回は過去最大の33社の企業・団体が出展、約2,000名の学生が来場しました。本イベントは、学生が主体となり、企業・団体の選定から出展交渉、学内への広報、運営までを行い、早くから業界知識を深め、自身のキャリアを考える機会につながっています。

多くの学生で賑わう会場

舞鶴幼稚園
教諭 鎮守（ちんじゅ） 菜摘（なつみ）

家族や友人と過ごす ゆっくりとした時間

休日はよく家族や友人と神社巡りをしています。御朱印集めにも夢中になっていて、御朱印帳はもう3冊目です。忙しなく過ぎていく毎日の中でもこの趣味のおかげで心が落ち着くゆっくりとした時間を持つことができています。毎日元気いっぱいな子どもたち！時にはゆっくりのんびり時間を過ごすことも大切にしていってほしいと思います。

年に2回「光の道」ができることでも有名な福岡県福津市の宮地嶽神社からの美しい景色

大切にしている御朱印帳。ページをめくるたび、心温まる思い出もよみがえります。